



自由民主党豊橋市議団広報誌・所属議員個人版 <平成 30 年夏号>

発行者:自由民主党豊橋市議団(豊橋市今橋町1市役所 7F) TEL:0532-51-2938(直通)

新たな挑戦へ向けて

中村竜彦です。27 歳での初当選から 12 年目を迎え、3 期目の最終年度になりました。

また、今年に入って、私が「来春の県議選に出馬へ」という新聞報道がなされました。

これまでの経験を糧に、もうひと回り大きな仕事ができる地域のチカラになれるよう、果敢に挑戦させていただき決意です。残り 1 年を切った市議会議員としての職責を全うし、この 12 年間の総まとめの年として努力致します！

ご理解のほど、宜しくお願い申し上げます。

6 月市議会、本会議 一般質問

先般の 6 月市議会で一般質問を行いました。以下、その抜粋を掲載いたします。

■吉田城の遺構の保全について

中村: 昨年、続日本 100 名城に選ばれた吉田城。シンボルの鉄櫓は模擬再建で歴史的価値はありませんが、本丸の石垣、土塁、堀等の遺構については、ほぼ全てが現存しています。吉田城においては復元もさることながら、まず第一に当時のまま現存する遺構の保全こそ重要と考えます。

しかし現在、石垣や土塁などの一部で樹木の根による孕み出しや崩れがみられ、極めて問題だと感じますが、歴史的遺構の保全の考え方について伺います。

教育部長: ご指摘の通り、石垣の孕み出しや隙間、土塁の崩落などには、上部にある樹木の根が影響しているものと考えられます。そこで、樹木につきましては、石垣や土塁などに与える影響を明らかにしながら段階的に間引いていくことが望ましく、対処して参りたいと考えております。

中村: 現在、豊橋公園の中の吉田城址は、たとえ 500 年前の石垣であったとしても公園管理者にしてみれば単に公園の一部という扱いになっているのではないかと感じます。よって、キチンと遺構の歴史的価値を認め、「史跡」に指定すべきと考えますが当局の所見を伺います。

教育部長: 石垣や土塁などの遺構は、以前からその重要性が指摘されておりました。今年度は石垣や堀など基礎の確認、また、地下に眠る二の丸御殿跡の残存状況の確認調査を行う予定です。今後、これらの残存状況や明治以降の改変等を把握することで資料の蓄積を図り、史跡指定に向け

て調査研究を進めて参りたいと考えております。

中村: 史跡指定に向けて進めて参るとのことですが、もし、史跡指定が叶いましたら、豊橋公園における吉田城址の価値が再確認されることとなります。であるなら、そのタイミングにあわせて、これまでの「豊橋公園」という名称を「吉田城址豊橋公園」に改称して、史跡指定を内外に示し、吉田城址の価値を改めて世に知らしめるべきだと考えますが、当局の所見を伺います。

都市計画部長: 公園の名称についてですが、豊橋公園は戦後から現在に至るまで幅広い市民に親しまれ、その名称についても市民に浸透しながら現在に至っているものと考えます。

仮に史跡指定された場合、吉田城址としての市民の期待や関心が高まれば名称の検討もあり得るものとは考えますが、これから史跡の調査を行うという状況ですので、まずはその進捗を見守って参りたいと考えております。

■就職・定住場所として本市が若者に選ばれるための施策について

中村: 人口減少時代にあって、若い人にわが街に住んでほしいと思うのはどの都市も同じです。

本市のセールスポイントはどこなのかを的確に把握し、若者の心に響くように伝えることが大切です。

そこで、まず、就活学生に選ばれる就職場所としての本市の現状と課題について伺います。

企画部長: 平成 28 年に市内 3 大学の学生を対象に行われた意識調査では実家が市内にある学生のうち卒業後 61%が本市を勤務予定地に行っている一方、下宿生や市外から通う学生の本市への勤務予定が大変低くなっております。

